

# 2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立坪生小学校
最終更新日		2024年(令和6年)2月15日

## I 福山市

ミッション ビジョン	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
---------------	---

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	○課題発見解決能力 ○コミュニケーション能力(自己効力感) ○チャレンジ精神 ○思いやりと感謝の心(地域貢献)
○コロナ禍で色々なことで努力してもらっている。 ○「子どもを育てる」という視点で地域と学校との関わりを増やしてほしい。 ○学校の様子が分からないので、様子が伝わるように工夫してほしい。	○「学校に行くのが楽しい」「安心して通っている」と感じている児童生徒の割合は91.3%(校区平均)であり、安心・安全で学校に楽しみを感じながら登校している。 ○「目標や方法を選びながら学んでいる」や「考えること、学びが面白い」と感じている児童生徒の割合は84.0%(校区平均)であり、選択・決定したり、対話をしたりしながら自ら学びを進めている。 ○昨年度も、コロナ禍のため、児童生徒が対面して交流することができなかった。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる
		中学校区として統一した取組等	○子ども主体の学びづくり(授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など) ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実

## III 自校

ミッション
「授業時数特例校」として、特色を生かした特別の教育課程を編成・実施するとともに、個別の学習支援の実践と取組を発信する。

学校教育目標
学び合い 学び続ける

現状
<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「自分で目標や方法を選びながら学んでいる」伸び⇒76% 肯定的回答⇒85%</li> <li>○「学校が楽しい」伸び⇒79% 肯定的回答⇒87%</li> <li>○「体を動かすことが楽しい」伸び⇒82% 肯定的回答⇒90%</li> </ul> <p>・肯定的回答、年度当初からの伸び共におおむね目標を達成しているが、各種調査の結果から、思考力、判断力、表現力等に課題が見られる。また、学びを調整する力や知識、技能においても、個人差が大きい。</p> <p>&lt;保護者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校に対する安心感 肯定的回答⇒90%</li> <li>・多様な価値観の中、学校が進める教育を丁寧に説明したり、保護者の意見をもとに修正したりする必要がある。</li> </ul> <p>&lt;職員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○勤務時間外在校時間月45時間を超えない職員⇒94%</li> <li>○「仕事にやりがいを感じている」⇒95%</li> <li>・コロナ対応等、例外を除き時間的な目標はほぼ達成できている。しかし、時間外在校時間の減少とやりがいの向上に相関関係は見えない。</li> </ul>

育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	課題発見解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神 (自己効力感)	思いやりと感謝の心 (地域貢献)	
めざす子ども像	5・6年	解決に向けて、主体的に選択・判断する	人の考えや気持ちを受け入れ、自分の意見や気持ちを表現する	結果の理由を次に生かしてやってみる	人や地域のためになることを考え、行動する
	3・4年	解決への方法を考え、見通しを立てる	人の気持ちを考え、自分の意見を理由をつけて伝える	得意なこと苦手なことやってみる	人や地域のためになることを考える
	1・2年	もんだいにきづき、かだいをたてる	じぶんのかんがえやきもちをいう	もくひょうをもつてやってみる	ひとやちいきにかんしゃのきもちをもつ

研究	テーマ	一人一人の多様な学びを促す授業づくり
	主題・内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つぶやきや疑問から探究が始まる働きかけ</li> <li>・概念を広く学ぶ機会の創出</li> <li>・知識を使う場の意図的な設定</li> </ul>
めざす授業の姿	児童一人一人が学びに向かう授業	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立坪生小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	加 入 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期・中期経営目標の達成状 況	加 入 評 価	達 成 評 価	総 合 評 価	改善方策
2	主体的な学 びの創造	★	見 直 し	一人一人の多 様な学びを促す 授業をつくる。	①教科の面白さや児童の 現状について交流する 時間を設定し、学びづ くりについての視野を 広げる。 ②教材研究や振り返り をもとに、児童とともに 授業づくりを行う。	①教材研究や授業実践を学 期に1回以上交流する  ②教科の見方・考え方を働 かせ主体的に学びに向か う児童が増えている。 ②児童アンケート 「授業で考えることが面白 い」 ②児童アンケート 「自分で目標や方法を選 びながら学んでいる」 年度当初アンケート 肯定的評価85%以上	①同学年間で単元計画や授 業後の交流は行っている が、他学年との交流や授業 後の交流は不十分だった。 ②教材研究や研修で話し合 った改善策をもとに授業づ くりを行ったことで、主体 的に学びに向かう児童が増 えた。 ⇒1学期末児童アンケート 「授業で考えることが面白 い」 肯定的評価児童 84% 「自分で目標や方法を選び ながら学んでいる」 肯定的評価児童 82%	3	3	①児童の考えやつまずきな ど児童の学びの姿を視点 に入れた授業後の交流を 行い、次の授業に生かす。 ②同学年だけでなく他学 年の職員とも系統的に教 材を練り合う場を設定 し、職員と児童とともに 授業づくりを行う。	①国語、算数、道徳にお いて児童の学びの姿を 視点に入れた授業後の 交流を行い、授業改善 に生かすことができ た。 ②低、中、高学年ごとに 系統的に教材について 話をする機会が増えた が、内容や質は様々だ った。 ⇒2学期末児童アンケ ート 「授業で考えることが面 白い」 肯定的評価 86% 「自分で目標や方法を選 びながら学んでいる」 肯定的評価 84%	4	3	3	①②月に1回以上児童の 考えやつまずきなど児 童の学びの姿や教科の 本質を視点に入れた授 業前・後の学年団や異 学年で交流を行い、授 業づくりに生かす。
3	自己肯定 感・自己有 用感の向上		見 直 し	学校に楽しく 登校できる児童 を増やす。	①個別面談等を活用し、 児童一人一人に寄り添 う指導を行う。 ②児童同士の相互評価の 場を、柔軟に設定す る。	児童アンケート 「学校に行くのが楽し い」 年度当初アンケート (4段階) 肯定的評価 85%以上	①設定していた個別面談 に加え、必要に応じて面談 を行い、児童の困り感や 悩みを把握し、指導に生 かした。 ②縦割班活動を行い、異学 年での関わりの場を設定 できた。 ③児童会によるレベルア ップ月間の取組みで、友 達の頑張りや成長を認め あう場の設定ができた。 ⇒1学期末児童アンケ ート 肯定的評価児童84%	3	3	①引き続き、定期的な面 談に加え、必要に応じ て個別面談を行い、一 人一人の思いや状況に 寄り添った指導を行 う。 ②縦割り掃除などの縦割 り班活動や行事、学級 活動等、積極的生徒指 導ができる場を意図的 に設定し、児童同士の 相互評価を活発に行 えるようにする。 ③児童会によるレベル アップ月間では、クラス での頑張りや成長を 広める場を設定す る。	①設定していた個別面談 に加え、必要に応じて 面談を行い、児童の困 り感や悩みを把握し、 指導に生かした。 ②縦割り掃除や行事、代 表委員会等で、積極 的生徒指導ができる場 を設定できた。児童同 士の相互評価を活発 に行えるように取組 を行った。 ③児童会によるレベル アップ月間では、クラス での頑張りや成長を 広める場を設定 できた。 ⇒2学期末児童アンケ ート 肯定的評価児童88%	3	4	3	①「学校が楽しい」と答 えられなかった児童が 12%いるという現状 を受け止め、引き続き 児童一人一人に寄り 添って指導を行って いく。 ②児童同士の相互評価 の場を柔軟に設定す る。「やってよかった。」 と感じられるような 評価の場になるよう、 言葉にも着目する。 ③児童会活動、委員 会活動、学級活動など の場での相互評価を 引き続き行っていく。

3	体力・健康に対する意識の向上	見直し	体を動かすことが楽しいと思える児童を増やす。	①体育的活動(行事)を通して、体を動かすことの楽しさを実感できるようにする。 ②委員会などと連携し、誰もが楽しみながら運動に触れる機会を設定する。	児童アンケート 「体を動かすことが楽しい」 年度当初アンケート(4段階)肯定的評価90%以上 ※肯定評価の維持は伸びと捉える。	①運動会や水泳が予定通り実施でき、児童が楽しく体を動かす場を設定することができた。 ②リズム縄跳びに参加する児童が少なく、内容を工夫する必要がある。 ⇒1学期末児童アンケート【体を動かすことが楽しい】肯定的評価89%	3	3	①2学期は体育的活動(行事)が設定されていないため、体育委員などと連携をしながら、楽しく運動ができる場を設定する。また、夏の研修を生かして日々の授業の充実を図る。 ②ただ体を動かすだけでなく、目的を持って運動に取り組めるような活動を考える。	①体育館の開放や体育委員を中心とした運動場の良い方の呼びかけなどにより、児童が安心・安全に遊べる環境を整えることができた。 ②体育委員が中心となって、おにごっこなどのイベントを開催し、多くの児童が楽しみながら運動できた。 ⇒2学期末児童アンケート【体を動かすことが楽しい】肯定的評価91%	4	3	3	①引き続き運動会等の学校行事の充実を図る。また、日々の授業の充実も図るために、研修を行っていく。 ②引き続き体育委員を中心としたイベントの開催を行い、児童が外に出るきっかけを増やす。また、リズム縄跳びのアレンジを考え、学年に応じた内容にしていく。
3	安全で安心できる学校の実現	★見直し	児童と保護者が安心・安全な学校生活を実感できるようにする。	①職員一人一人が学校の取組を自身の言葉で語れるようにする。 ②保護者や地域の多様なニーズを把握し、様々な方法で、タイムリーに情報発信をする。	保護者アンケート【学校に対する安心感】肯定的評価93%以上	①職員同士の対話を中心とした研修を設定した。 ②月に1回以上の学校日よりや学年通信、学級通信を発行することによって、児童の様子を保護者に伝えることができた。 ⇒保護者アンケート【学校に対する安心感】92%	3	3	①引き続き、対話を中心とした研修の場を設定し、自身の言葉で語ったり、様々な取組の目的や目指すべき方向を職員で共有したりする。 ②予定のお知らせだけではなく、実施した内容など子どもたちのがんばりが、伝えられるようにする。	①学びの評価や保護者との共有の仕方について、職員同士の対話を中心とした研修を設定し、日々の授業や三者懇談に生かした。 ②日々の授業に加え、行事なども便りやクラスルームで配信した。 ⇒保護者アンケート【学校に対する安心感】92%	4	3	3	①職員一人一人の多様なアイデアを出し合う場を確保し、学校運営の参画意識をさらに高める。 ②学びの様子に加え、研修や各部の取組等についても情報発信を行う。
			教職員が個性を発揮しながら、やりがいをもって勤務できるようにする。	①児童の成長を実感できるよう、教材研究の充実を図る。 ②職員の見解を取り入れながら、学校運営を行う。	職員意識調査「仕事にやりがいを感じている」肯定的評価95%以上	①夏季研修などで様々な先生と教材研究について交流する場を設けたが、日々の日常の中では不十分だった。 ②主任会や企画委員会などで多くの先生方とも話し合い、様々な視点の意見を取り入れることができた。 ⇒職員意識調査90.9%	3	3	①研究部とも連携をして、児童の成長を実感できるような教材研究の機会を設ける。 ②意見の取捨選択を行いながら、学校運営を行う。早めに情報共有を行うことで、全職員で共通理解を深めていく。	①学年ごとに板書交流を行い、授業の振り返りを行うことができた。 ②計画的に学年会等を運営できるように、年度末に向けての業務計画表を作成し、職員間で共有した。 ⇒職員意識調査95.6%	3	4	3	①日々の教材研究について交流できるような場を設定していく。また、教職員が個性を発揮できるような機会を設ける。 ②組織体制の見直しや、職員同士の対話を通して、全職員で共通理解を高めていく。

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。